

活動報告

第5回 たかつきNPO

協働フェスタ



みなんで育もう*
市民協働のまち
たかつき
マスコット
キャラクター
決まる
日時：平成 21 年 10 月 31 日(土)

場所：高槻市立総合市民交流センターと高槻市民公益活動サポートセンター「協働プラザ」
V G 槻輪は、実行委員会の一員として参加しました。

プログラムに掲示参加団体活動紹介つながらるポスト
今年、JR 高槻駅前至高槻市民公益活動サポートセンター「協働プラザ」が 7 月に開設されたのを記念して、会場を JR 駅前で開催されました。交流センター 8 階で基調講演会「協働」は誰にとつてのメリット!!

交流センター 1 階多目的ルームではお子さんの楽しい催し。
協働プラザでは、高齢者・福祉関係のイベントでした。 S・O

甘辛チャンネル

二人の名優を偲んで

平成 21 年 11 月中旬 俳優の森繁久弥氏(96 歳)、ジャーナリスト・国会議員 田英夫氏(86 歳)が相次いで亡くなられた。

ご存知の様に森繁氏は映画、ラジオ、テレビ、舞台、中でもミュージカル「屋根の上のヴァイオリニスト」は 19 年間 900 回の公演を重ねられたそう。大阪の枚方生まれで進学の為上京し、演劇の道に進まれ、戦争中はアナウンサーとして旧満州で活躍し、戦後は俳優としてユーモアと大阪人特有の明るさでお茶の間で充分楽しませて頂いた。また有名な「知床旅情」は氏の作詞・作曲で、御自身で歌われレコードにも吹き込まれ、その後いろいろな歌手が歌っている。

先日新聞に、歌手加藤登紀子氏は、歌う様に語り、語る様に歌え」との言葉を森繁氏から頂いた。と掲載されていた。田(でん)英夫氏は民間放送の記者、キャスターとして活躍され、その後国会議員として政界で活躍された。

森繁氏は俳優として、田氏はジャーナリスト・政治家として人々に伝える仕事を貫いたが、二人共その語り口は無駄を省き、而も解り易く理路整然としていた。

公(おおやけ)の場での話し言葉の理念を学んだ様な気がします。

国の最高機関での議員諸氏も私達一般人も森繁氏、田氏の語りをお手本にしたいもの。
親しみをこめる語りは決してゾンザイであってはならない。
よくよく噛み締めて美しい日本語を使いたいと認識させられました。 N・Y

漢字を考える

花の名前

寒くなり春のように野山に花が咲き乱れることがなく、むしる枯葉や稲の切り株が寂しさを感じ

させる季節になりました。でも花は何時でも私たちの身近にあります。

この季節、金・銀木犀(もくせい)が甘い香りを漂わせて、秋桜(コスモス)も可憐な花を咲かせています。

花の名前も漢字で書くとなかなか読みづらいものもありますね。

竜胆(りんとう)・吾亦紅(われもこう)・木槿(むくげ)・杜若(かきつばた)・車前草(おおばこ)・女郎花(おみなえし)・撫子(なでしこ)・狗尾草(えのころぐさ)・梔子(くちなし)・山茶花(さざんか)・紫陽花(あじさい)等々、

漢字を見ただけでは花が思い浮かばないものも多いのではないのでしょうか?

これからお花屋さんのお店を賑わすのは、ポインセチア・シクラメン、お正月用に葉ボタンも出てきます。派手な花ばかりですが一輪の椿でも心を和ませてくれます。 S・K

会員便り

晩秋を楽しむ

自分を振り返る

11 月中旬ともなると秋の深まりを感じますが、比叡山の山頂では更に深まっています。世界文化遺産の延暦寺の諸堂巡りをさせて頂きました。

晩秋の紅葉が堂塔伽藍を引き立て、山頂の澄んだ空気を胸一杯に吸い込みながら、自分を振り返る時間を持ってました。

不滅の法灯

伝教大師最澄が比叡山上に登り延暦寺を開いたのに始まり、以来 200 年以上にわたって途絶えることなく不滅の法灯として守り続けられています。

法灯を守ることは、切らさないように油をさす、灯心を手入れする。難しい事ではないが続けると言うことが如何に大切か教えてくれます。油断大敵の語源は色々あるにしても、法灯がこれ一番教えてくれているのではないのでしょうか。 S・O

紅葉

四季彩

【小寺池公園】

11 月 11 日の「わがまち学ぼう事業」フィールドワークの第 1 回 「伝統の酒造りと寺内町のまち「富田」」の実施計画が雨天のため延期となった。

予報とは裏腹に良い天気でした。西廻りコースのリハーサルを夫婦で歩いてみました。日頃、図書を借りるため図書館にはしょっちゅう行くが[図書館前のいろは紅葉]をじっくり見たのは珍しい。赤、黄、みどりのグラデーションは写真で見るとすばらしい。 T・N

